

# 下大静脈フィルター留置術



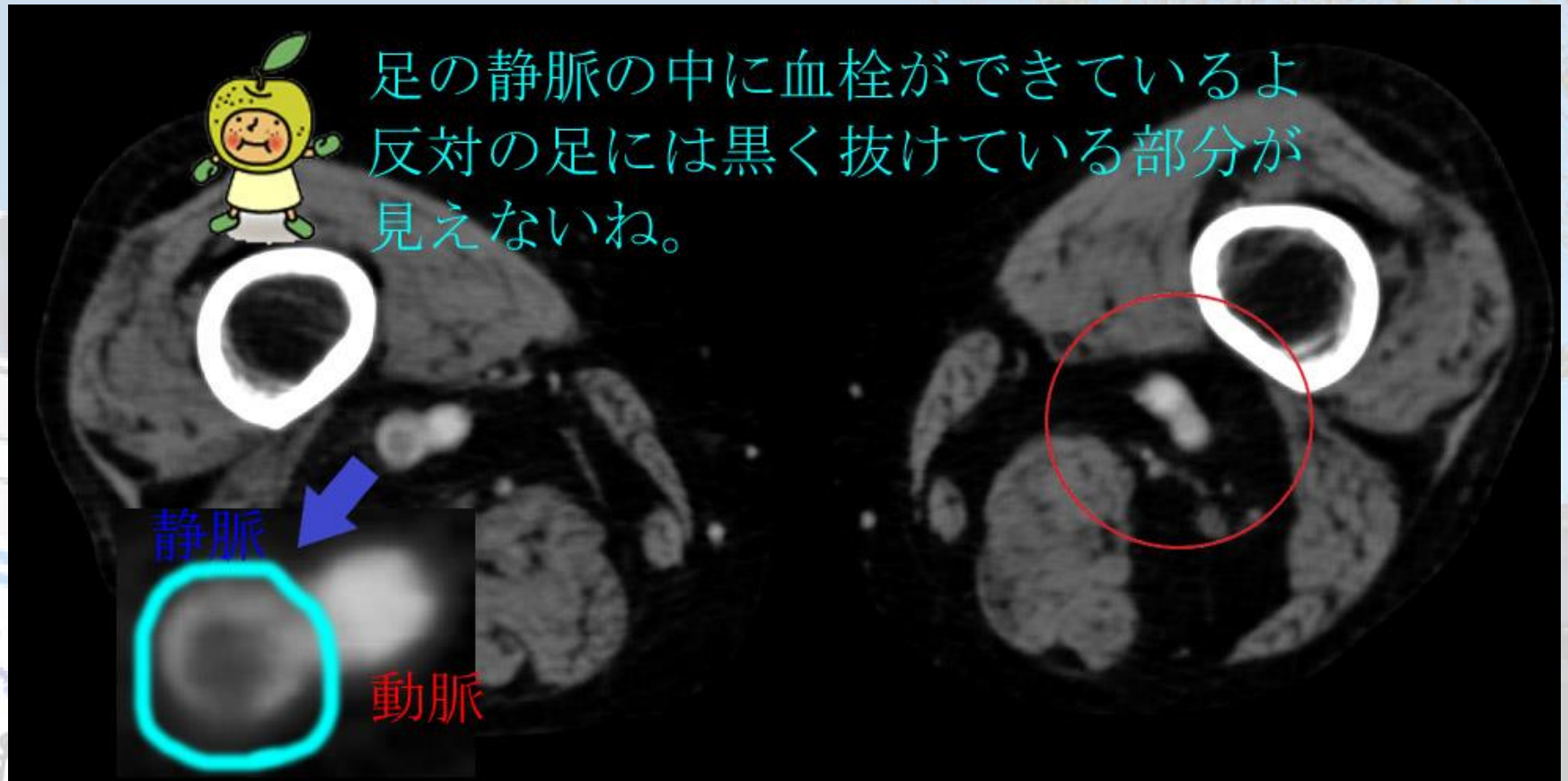
# 下大静脈フィルターとは？

腹部の大きな静脈(下肢深部静脈)に留置し、下肢から移動する大きな血栓が肺へ行かないように止めるフィルターです。

下肢でできた大きな血栓が肺へ移動すると、肺動脈が詰まり、胸痛や呼吸困難や命を落とすこともあります。下大静脈フィルターはそういった肺塞栓症の予防のために挿入します。

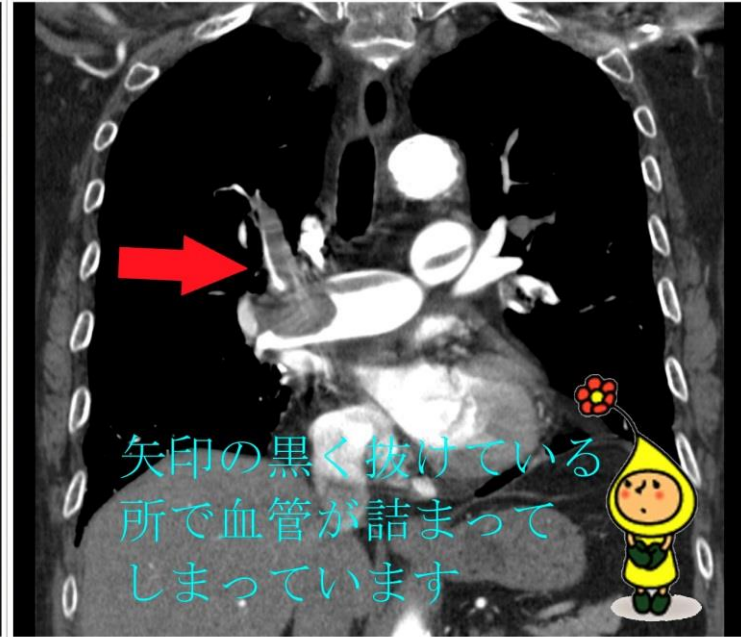


# 下肢でできた血栓の画像



通常は足が浮腫んだり腫れたりしますが、症状がない場合もあります。

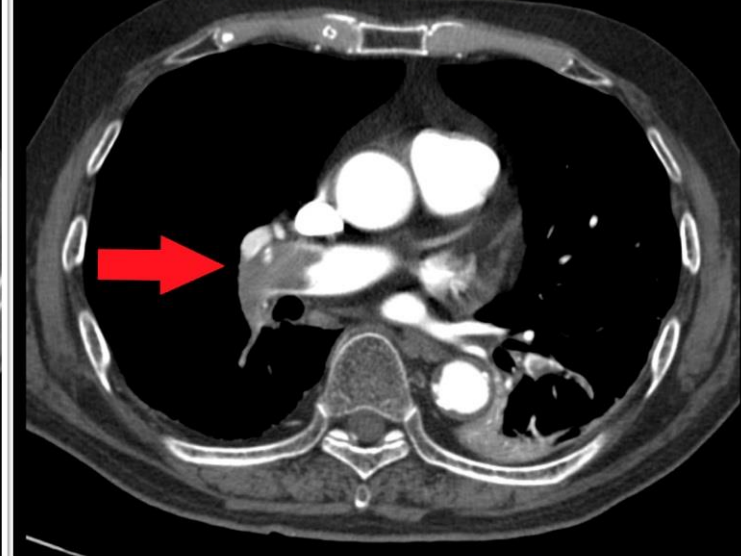
# 肺塞栓症の実際の画像



## 正常造影CT画像



## 肺塞栓症CT

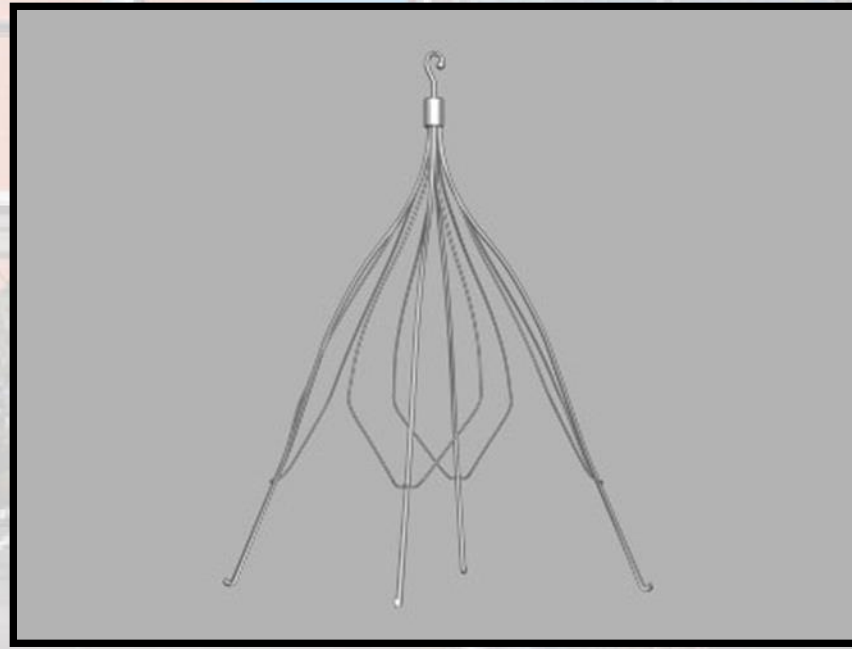


# 下大静脈フィルター

下大静脈フィルターは傘のようなものです。

静脈の血流は保たれるため、流れていても問題ないような小さな血栓は捕捉されません。

また捕捉された血栓は徐々に溶けていきます。



# 治療方法

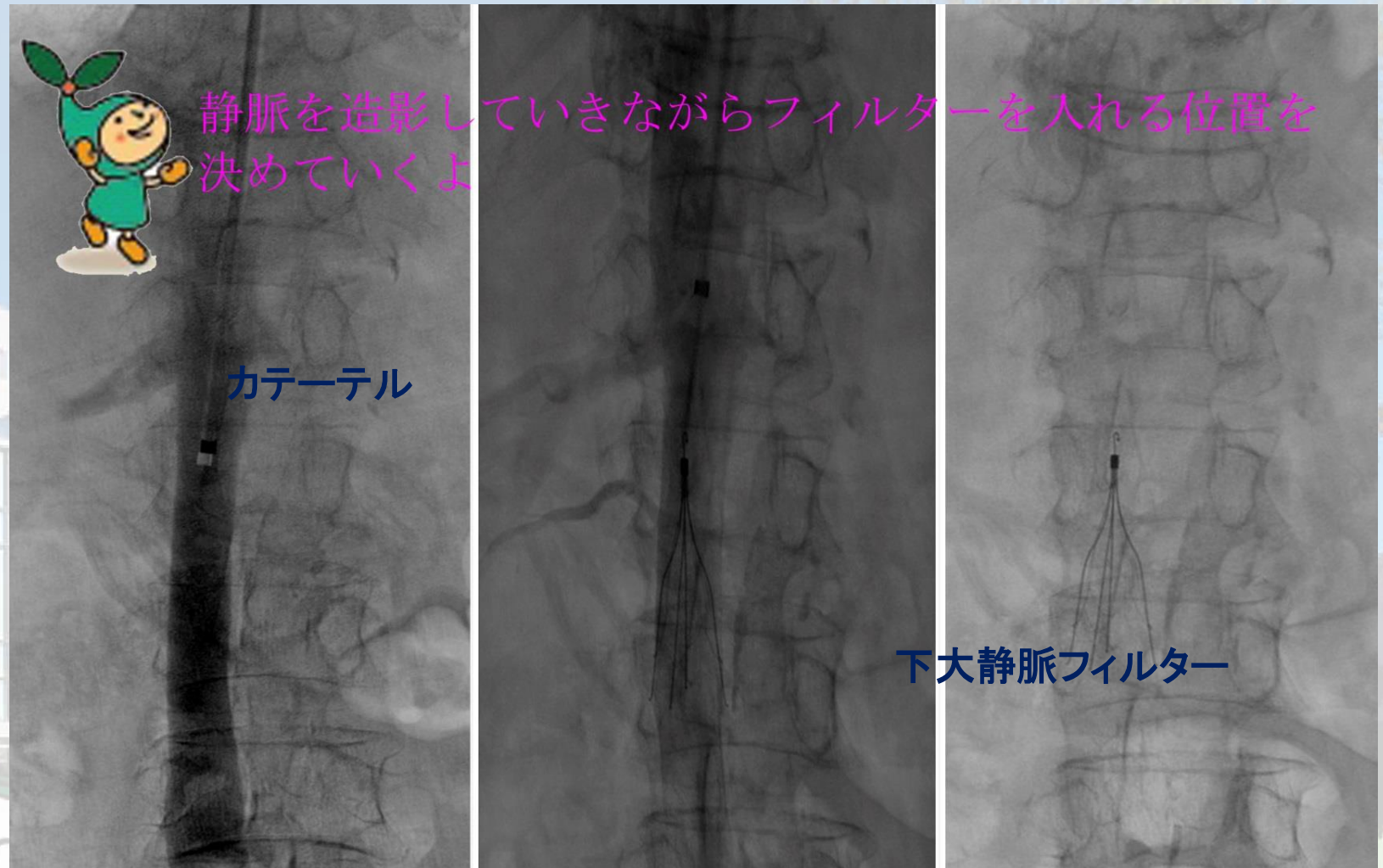
足の付け根に消毒・局所麻酔を行い、静脈から穿刺しカテーテルという管を入れていきます。

静脈を造影しながらフィルターを入れる位置を決めて留置します。

合併症としては稀に出血、血腫、感染、疼痛、血管損傷、フィルターの移動などがあります。



# 下大静脈フィルター留置の様子



カテーテル内に収納していたフィルターを下大静脈に留置します

# 下大静脈フィルターについて

留置するフィルターは永久留置が可能なものですが、異物であることにはかわりなく、長期的に留置することで血栓形成や、稀に下大静脈損傷が起こることがあります。

フィルターは留置後一週間であれば回収できるものもありますが、足の静脈に血栓が残っている場合や血栓ができやすい場合には永久留置することになります。

